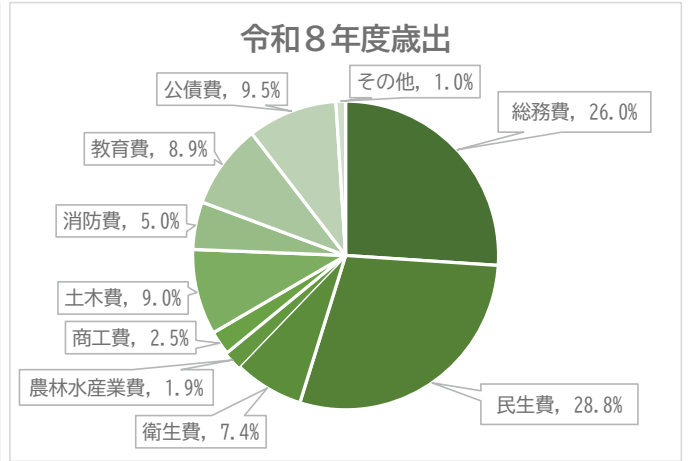
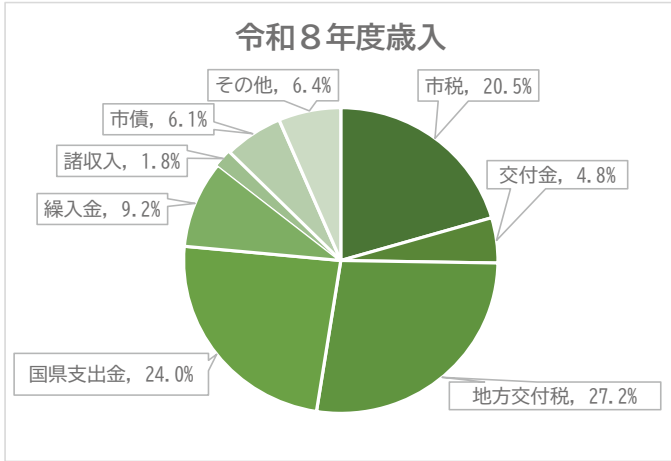


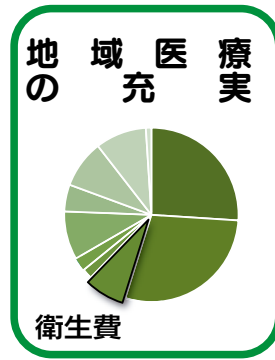
予算特別委員会

予算特別委員会は議員全員で構成し、委員長に古川愛明委員、副委員長に佐藤憲弘委員を選出し、3月9日から4日間にわたり、一般会計予算のほか関係する議案及び各特別会計予算等の計10件の審査を行いました。



問 地域医療体制維持支援事業の設立後、どの事業から着手するのか。また、市はどう関与するのか。

答 医師派遣、医療従事者の共同研修、医療機器の共同利用、医薬品の共同購入、BCP策定などに取り組む予定である。市は法人の一員として運営に参画し意思決定に関わるとともに、関係機関との調整や構成団体間の意見集約などの事務的支援を担う。



予算特別委員会審査の動画は、閲覧の動向からごす。予番下記ただけです。



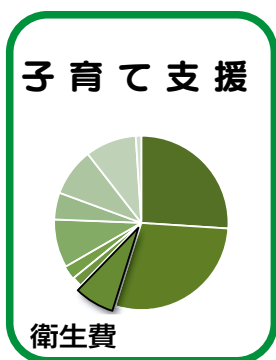
問 県立釜石病院のリハビリテーション機能が提供するリハビリテーション機能は共存可能か。

答 建て替えに伴って新設される60床の回復期の病床は、県の地域医療構想において不足する分が補充されるものだ。退院後にもリハビリを要する患者等の紹介ができるなど、

問 地域医療連携推進法が目指す地域医療の姿と市民が受けられる恩恵は。

答 目指す地域医療は、人口減少や病院縮小が進む中で、今の各病院の機能を維持しつつ、回復期・慢性期・在宅医療等を将来にわたり確保する仕組みである。入院先の確保や在宅医療の充実など、市民への恩恵は大きく、安心して暮らせる体制の維持につながる。特に高齢化が進む本市に重要な施策である。

問 妊産婦支援事業 宿泊型産後ケアの定員や利用見込みは。



官民相互に補充し合える関係となることが期待される。

問 地域医療DX推進事業 オンライン診療について、医療機関等との意見交換の状況と導入の見通しはどうか。

答 医師会と連携し勉強会や服薬指導体験会を実施しており、通院負担軽減への理解が得られる。一方、操作面や診療精度への懸念も示されている。現時点で導入時期は未定であり、対面診療を補完する手段として引き続き調査・研究を進めていく。